

ふるさとの画家—日本画家とゆかりの地

会 期 2003年4月12日(土)～6月15日(日)

画家には、それぞれ生まれ育った地や、愛着のある場所など、ゆかりの深い土地があります。そして、ひとくちにゆかりの地といっても、出生地をはじめ、ながく暮らした場所、あるいは、作品を描くために訪れた地など、画家との関係はさまざまです。本展覧会は、どこの地域に、どのような関わりをもった画家がいるのか、北海道から九州地方まで、日本各地を代表する画家の作品を展示し、画家とそのゆかりの地、両者のさまざまな関係をご紹介します。今回、展示される横山大観《荒川の巻》は、秩父三峰、長瀬から熊谷、そして赤羽まで、小杉未醒（放菴）とともに約一週間をかけて荒川を下りながら行った写生をもとに描かれました。その途中、二人が立ち寄った熊谷には、絵巻がゆかりとなって今も数点の作品が残されています。このほか、群馬県館林市出身の小室翠雲の作品や、中島千波（長野）が描いた福島県三春町の《瀧桜》、上村松園・松篁・淳之（京都）の作品など55点を展観します。

会 場 高崎市タワー美術館（370-0841 高崎市栄町3-23 電話 027-330-3773）

時 間 午前10時～午後6時（入館は午後5時30分まで）

金曜日のみ午前10時～午後8時（入館は午後7時30分まで）

休 館 日 毎週月曜日（祝日の場合は開館、翌火曜日を休館）、4/30

会期中の休館日：4/14・21・28・30、5/6・12・19・26、6/2・9

観 覧 料 一般：500円（400円）、大高生：300円（250円）、中小生：200円（150円）

- ()内は20名以上の団体割引料金
- 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた方、および付き添いの方1名、65歳以上の方、未就学児は無料となります
- 市内に居住する小中学生については、毎週土曜日は無料となります

主 催 高崎市タワー美術館

後 援 朝日新聞前橋支局、産経新聞前橋支局、上毛新聞社、東京新聞前橋支局、日本経済新聞社前橋支局、毎日新聞前橋支局、読売新聞前橋支局、NHK前橋放送局、群馬テレビ、エフエム群馬、ラジオ高崎

企画協力 山種グループ

関連事業

- ギャラリートーク 4/12、4/26、5/10、5/24、6/7 14:00～